

生誕一三〇年

野上豊一郎の能楽研究を検証する

能の誕生は室町時代にさかのぼりますが、その研究が本格的に始まったのは明治時代になってからでした。西洋文化との接触後、日本古来の演劇である能の魅力について、多くの先達たちが追究しましたが、そのなかで多くの研究を残し、能楽研究に新見地を示したのが野上豊一郎です。法政大学能楽研究所は、その野上の功績を記念し、一九五二年に設立されました。

野上は夏目漱石に師事する一方、英米文学をはじめ世界各国の文学作品の研究をおこなっています。また、若いときから能楽を愛好し、その研究・普及に尽力しました。世界文学の一つとして能を捉える野上の視点は実に多角的で、研究は広範にわたります。このシンポジウムでは、能の作品を「ハフォーミング・アーティスト」として捉えようとする野上の研究を検証し、その現代的意義を考えていきます。



◆日時：

10月7日(月) 17時30分～20時30分

◆会場：法政大学(市ヶ谷キャンパス)

ボアソナード・タワー26階 スカイホール

東京都千代田区富士見2-17-1 (JR・地下鉄各線 飯田橋駅または市ヶ谷駅より徒歩10分)

※当日、野上豊一郎に関する資料展示を同フロアで行ないます。

講演 能楽研究の開拓者 野上豊一郎 西野 春雄 (法政大学名誉教授)

シンポジウム「シテ一人主義」再考

報告1 野上豊一郎の「戯曲的分析」の方法 伊海 孝充 (法政大学文学部准教授)

報告2 ワキの役割 小田 幸子 (明治学院大学非常勤講師)

入場無料

申し込みも不要ですので、直接会場にお越しください。
ただし、定員(100名)を超える場合には、ご入場をお断りする場合がございます。

主催 野上記念法政大学能楽研究所/共同利用・共同研究拠点能楽の国際・学際的研究拠点

問い合わせ先

法政大学能楽研究所

電話：03-3264-9815 ファックス：03-3264-9607